

7 課

8月13日

不滅の希望



安息日午後 8月6日

暗唱聖句

そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。(ローマ5:5、口語訳)

希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。(ローマ5:5、新共同訳)

今週の聖句

ヘブライ1:1~4、ヨブ記38~41章、イザヤ41:8~14、エレミヤ記29:1~10、ヘブライ12:1~13

今週のテーマ

教会において、微笑みに満ちた人に囲まれているときは、希望について語り、賛美することは簡単です。しかし試練の中にあるときに希望を語ることは簡単なことではありません。逆境に立たされると、私たちはあらゆることに、特に神の英知に疑問を持ちます。

C・S・ルイスは著書の中で、想像上のライオンについて書いています。このライオンに会おうとしたある人が、そのライオンが安全かどうかを尋ねます。すると、安全ではないが、「善良」であるという答えが返ってきました。

私たちは常に神を理解できるとは限りません。また神は私たちが予測できないことをなさいます。しかしそれは、神が私たちに敵対しているのではなく、単に、私たちがまだ神の全体像が見えていないだけなのです。しかし私たちは、平安と確信、そして希望を持つために、神は理解でき、予測できなければならぬという考えを抱いて苦しみます。私たちは、ライオンは「安全」でなければならないと考えてしまうことで、自らを失望へと追い込んでいます。

今週のポイント

神のご品性を理解することは、試練の中で希望を持ち続けるためにどのような助けとなりますか。

私たちは傷ついているとき、身の周りに起きることだけしか目に入らないものです。しかしそこには「私」よりももう少し「大きな絵」があるのです（黙12:7、ロマ8:22参照）。

問1 ハバクク1:1~4で、ハバククは何に直面していましたか。

「ハバククよ、これは実にひどい有様だ。わたしが今すぐ降って行ってあなたを助けよう」。あなたは神がこのように言われるのを期待するかもしれませんが。しかし神の答えは反対でした。神は、状況はさらに悪くなると言われます。ハバクク1:5~11からその預言を読んでください。

イスラエルはアッシリア人によって捕囚の身となります。しかし神はさらに悪いことが起こると約束されます。バビロン人がユダの民を連れ去るということです。ハバククは12~17節で再び嘆願し、神の答えを待ちます。

問2 ハバクク2:2、3にある、神に約束されたバビロン滅亡の預言の導入部は彼にどのように希望をもたらしますか。

ハバクク2章は神のバビロン人の滅亡の約束です。ヘブライ10:37はハバクク2:3を引用して、この未来の約束をメシア預言として理解するためのヒントを与えています。このバビロンの滅亡は、メシア預言と同様の確実さをもって約束されました。同様に、「大いなるバビロン」（黙18:2、口語訳）の滅亡もまた私たちにとって同じ確実さをもって約束されています。

ハバククは彼を取り巻く大いなる悪と、神のさらなる悪の到来の約束との板ばさみにありました。しかし、それは紛れもなく、救済の歴史の中で私たちが置かれている状況でもあるのです。私たちも大いなる悪に取り囲まれています。聖書はさらなる悪の到来を予告しています。ハバククがこの時代を生き抜くことができたのは、「絵」の全体を示されたからです。こうして彼は3章で、神が将来になされる御わざのゆえに、信じがたい賛美の祈りを献げることができたのです。

ハバクク3:16~19を読んでください。ハバククは希望の理由として何を見えていましたか。来るべき最後の預言的場面を待望しながら、神の民が希望の拠り所とするものは何でしょうか。あなたはどのようにしてその希望を自分のものにするのでしょうか。

オズワルド・チェンバーズは次のように書いています。「あなたは神が何をしようとしておられるのかを主に尋ねたことはないだろうか。神は決してしようとしておられることをあなたに告げはしない。神はただ、神がどのようなお方であるかをあなたに示すだけである」(『いと高き方のもとに』1月2日)。

問3 上記のチェンバーズの言葉は何を言おうとしているのでしょうか。

ご存じのように、ヨブ記は彼の身に起こる大変な悲劇で始まります。彼は自分の命と妻以外のすべてを失います。妻は彼に「神をのろって死になさい」(ヨブ2:9、口語訳)と言います。続いて彼の友人たちがやって来て、なぜ彼にそのようなことが起きたのかを議論します。その議論の中、神はなお沈黙を守ります。

その後ヨブ記38章で、突然神は現れ、仰せになります。「無知の言葉をもって、神の計りごとを暗くするこの者はだれか」(ヨブ38:2、口語訳)。神はたたみかけるように60もの驚くべき問いをヨブに投げかけられます。ヨブ記38、39章を開いて、それらの問いに目を通してください。

問4 ヨブ記42:1~6の彼の最後の応答を読んでください。神は何のために彼に問いかけたのでしょうか。その結果はどのようなものでしたか。

神は、ヨブの友人の「なぜ」との問いには一切お答えになりません。しかし驚くべき創造の御わざの描写を通してご自身の比類のない偉大さをお示しになります。ヨブはもはや、神からの答えを必要としませんでした。そこに描かれた神の御わざの荘厳さに圧倒され、もはや説明の必要は消え失せてしまいます。

この物語は、自分がいかに小さいかを知るとき、希望と勇気が湧いてくるといふ逆説を示しています。人は本能的にすべてを知ると安心し、それができないと失望します。しかし神は、時に私たちの無知に光を当てることによって、私たちは人間よりはるかに偉大な方の内にあるのみ希望を持つことができることを悟らせるのです。

今あなたの身に理解できないことが起きていませんか。もしそうなら、神のご品性に目を向けましょう。どのようにして、今理解できないことを忍耐するために必要な希望を持つことができますか。

「わたしは主、あなたの神。あなたの右の手を固く取って言う／恐れるな、わたしはあなたを助ける、と」(イザ41:13)。

ある人が言いました。「神が遠くに思えるとき、離れたのはどっちだろうか」。私たちは問題に直面すると、神は自分を見捨てたのではないかと考えますが、実際には、神はどこにも行かれていません。

捕囚時代のユダヤ人にとって神の存在は遠いものに思われました。しかし、そんな時でも、神はイザヤを通して未来の救いを保証しておられました。エルサレムへの帰還は、実際には遠い先のことでしたので、神はその民に、主は彼らから遠く離れてはおられず、その希望には理由があることを知ってほしかったのです。

問5 イザヤ 41:8~14 を読んでください。そこに未来の救いを待望した民のためにどのような希望が与えられていますか。この約束は、地上における捕囚生活の終わりを待望する私たちにとってもどのように助けとなりますか。

イザヤ41:13はこの箇所でも最も力ある表現の一つです。宇宙を統治される神が、「あなたの右の手を固く取って」主の民は恐れる必要はないと言われます。この表現は、私たちの地球からはるか^{あなた}彼方の天の玉座から、地上の出来事をすべて導かれる神の姿を想像させます。しかし同時に、神は愛する民の手を取ることができるほど近くにおられる神でもあるという、主のもう一つの姿を1枚の絵として描いています。

私たちは忙しいとき、神がこんなにも近くにおられることを忘れがちです。しかし、私たちが、主はインマヌエル、すなわち「我々と共におられる」神であることを思い出すとき、そこに大きな違いが生まれます。神の存在が私たちと共にあるとき、主の目的、主の約束、そして主の造り変える力もまた私たちと共にあるのです。

これから数日間、生活の一瞬一瞬に、宇宙の神があなたの近くにおられ、あなたの手を取り、あなたを助けるとの約束を思い出してみてください。それがあなたの生活をどう変えたかを書き出し、クラスで分かち合ってください。

問6 だれもが希望を求めています、それはどこにあるのでしょうか。ある人にとってそれは友人の微笑であり、他の人にとっては、経済的安定や落ち着いた結婚かもしれません。あなたはどこに希望と勇気を求めていますか。

エレミヤ書の中で、預言者は捕囚となって希望を失っていた民に書いています。「バビロンの流れのほとりに座り／シオンを思って、わたしたちは泣いた」（詩編137：1）。彼らの心は悲嘆に暮れていますが、エレミヤは彼らがなおも希望を失ってはならない理由を述べます。

問7 エレミヤ 29：1～10 には、希望を持つべき理由について何と記されていますか。

この箇所には希望を持つべき三つの重要な理由が強調されています。

第一に、神はその民に、彼らが置かれた状況は偶然の結果でも予測できない災いでもないのだから希望を失ってはならないと言われます。神自ら「わたしは、(ユダを)エルサレムからバビロンへ捕囚として送った」（エレ29：4）と言われます。災いに囲まれてなお、ユダは神の御手の真ん中にいたのです。

第二に、神はその民に、神は彼らが今置かれている困難にあっても働くことができるのだから希望を失ってはならないと告げます。「わたしが、あなたたちを捕囚として送った町の平安を求め、その町のために主に祈りなさい。その町の平安があってこそ、あなたたちにも平安があるのだから」（エレ29：7）。

第三に、神はその民に、神は定められた時に彼らの捕囚を終わらせるのだから希望を失ってはならないと語ります。「主はこう言われる。バビロンに七十年の時が満ちたなら、わたしはあなたたちを顧みる。わたしは恵みの約束を果たし、あなたたちをこの地に連れ戻す」（エレ29：10）。

神は、彼らの過去、現在、未来に責任を負われることをこのように説明した後、神の民に対する優しい守りの御手を美しく描きます（エレ29：11～14）。

エレミヤ 29：11～14 の「あなた」の代わりに自分の名前を入れて読んでみてください。神が個人的にあなたに与えられた約束であるかのように、あなたが今闘っていることがなんであれ、きっとあなたの助けとなるでしょう。

問8 ヘブライ 12:5~13 を読んでください。ここに書かれているメッセージは、今期私たちが学んでいることとどのように結びつきますか。

ヘブライ 12:5~13 でパウロは試練を鍛錬という文脈の中で描いています。英語の新国際版の聖書では、「鍛錬」という言葉がさまざまな形に翻訳されてこの箇所にも10回出てきます。ギリシア世界ではこの言葉は、基本的に「教育」にまつわる言葉でした。ですから、この「鍛錬」という言葉を理解するには、パウロがヘブライ 11章ですでに描いているように、神が私たちを信仰の学校で教育しておられるという文脈で理解する必要があります。

ヘブライ 11章全体を通じて、パウロは信仰の勇者について描写しています。あらゆる種類の試みに遭いながらも彼らを前進させたのは信仰でした。12章に入るとパウロは私たち読者に向き直って、私たち以前にもおびただしい人々が信じがたい逆境に耐えてきたのだから、私たちも信仰の生涯を走り切ることができるのだと言います。その鍵はイエスから目を離さないことであり（ヘブ 12:2）、彼は時代が変わっても私たちの模範です（同 12:3）。12章は私たちにとって眼鏡のようなものです。この眼鏡なしには、私たちの視界も試練に対する理解も常にぼやけたものになります。しかしこの眼鏡を通して見ると、現代の文化によってゆがめられた苦難についての不明瞭な説明の焦点が合うのです。そのとき私たちははっきりと理解でき、試練に対して賢く対処できるようになるのです。

問9 ヘブライ 12:1~13 という「眼鏡」を通して 5~13 節に注意して読み、下の問いに答えてください。

この鍛錬は何から出ていますか。

この鍛錬に私たちはどのように対処すべきですか。

この鍛錬が目指すゴールは何ですか。

もう一度ヘブライ 12:1~13 を読んでください。希望を持って耐え忍ぶ理由となることをすべて書き出してください。あなたは霊的「教育」を受けたとき、この希望をどのように経験しましたか。

参考資料として、『教育』第9章「天の学校」、『ミニストリー・オブ・ヒーリング』40章「日常生活の助け」を読んでください。

「誰でも時には、激しい失望と絶望に陥る時があって、心は悲しみに満たされ、神が今でも地上の子供たちの慈悲深い保護者であられることを信じ難い日々があるものである。心は悩みにさいなまれて、生きているよりは死んだほうがましだと思われる時がある。そうした時に多くの者は、神に対する信頼を失って、疑いと不信の奴隷になるのである。そのような時に、もしわれわれが霊的洞察力をもって、神の摂理の意味を悟ることができたならば、天使たちがわれわれを助けて、われわれの足を永遠の山よりも堅い基礎の上におこうと努めているのを見ることができであろう。そして、新しい信仰と新しい生命がわき上がることであろう」（『希望への光』452、453ページ、『国と指導者』上巻130ページ）。

話し合いのための質問

- ① エレン・ホワイトは、「誰でも激しい失望と絶望に陥る時がある」と言っています。どうすればお互いの試練に気づくことができるでしょうか。どうすれば私たちは、そのような激しい失望の中にあるとき、お互いのために希望の使者となれるでしょうか。
- ② クラスで火曜日の最後の問いの答えを分かち合いましょう。常にあなたの身近におられる神を意識することは、あなたの生活をどのように変えましたか。
- ③ クラスでヨブ記 38～41 章を読んでください。そこにはどのような神の姿が描かれていますか。どのような描写があなたに希望と勇気を与えましたか。安息日はそのような神の描写とどのように調和しますか。そこにどのような神のご性質とご品性を見ることができますか。
- ④ 人を造り変える希望は天から来る。つまり、私たちがお互いの人生の中に希望が与えられるように祈ることができます。最近希望を失いかけている人のために祈りましょう。新たな希望が与えられるでしょう。さらに、希望を求めず力さえなくしている人のために、あなたには何ができますでしょうか。
- ⑤ もしできれば、希望と信仰を失うような試練と絶望を経験した方に証しをお願いしましょう。その方はどのようにその危機を脱したのでしょうか。疑いと絶望の時の助けとなるような経験があれば分かち合いましょう。